



茶  
名  
古  
印

乃  
心  
心

柳系



序

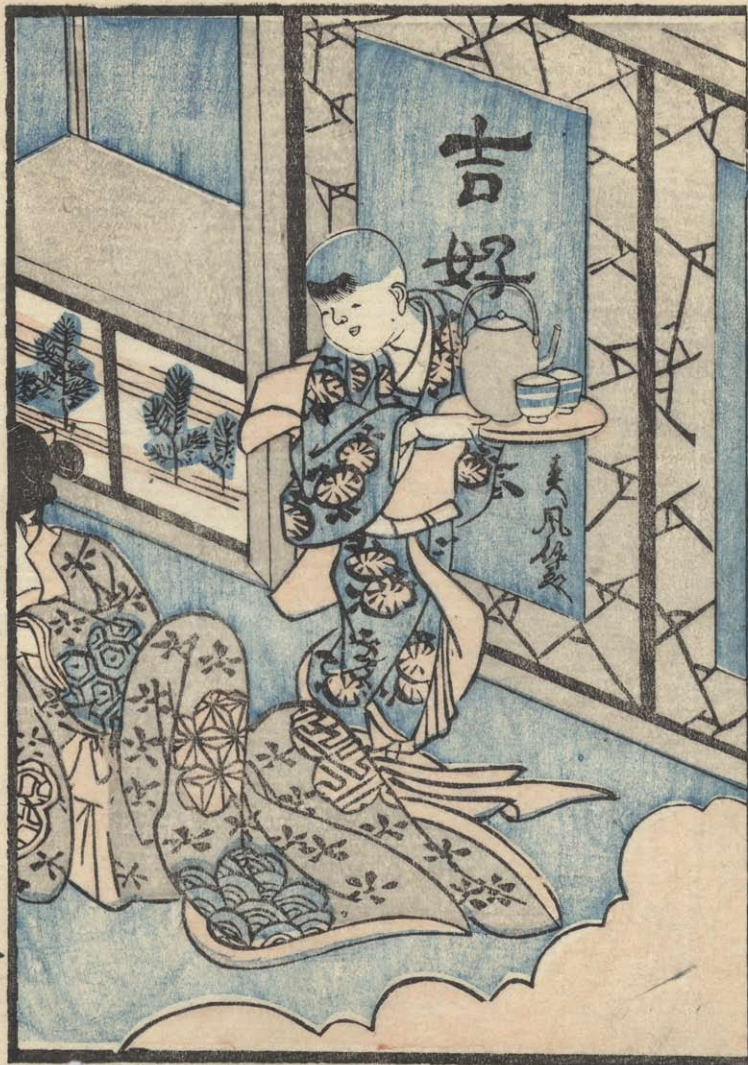
柳をみたりあまのさかき実の海の花よりき  
はの海神お活る脚のあつるの民と抱て  
所より山も観ての舞はるる舞と楽し  
宵のあつる心世の中とけとみちま  
とやと楽変りてはなれ中の中とら

春風亭主人柳緑



吉好

美月楼





▲あしをさうらへ水みづ火かのらちも

あしをさうらへ

あしをさうらへ水みづ火かのらちも

あしをさうらへ

あしをさうらへ

あしをさうらへ

あしをさうらへ



▲あしをさうらへ

▲さちやうとてこぶとちえされ

神楽村のぞん

ゆきふさふさむら

くましかしとぬとさ

つひてあふみゆら

あやら。

▲あふみゆら

くましかし



▲ちろぐたのうけい<sup>こ</sup>をもて又<sup>こ</sup>世<sup>こ</sup>

篠沢七角

ち市<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>世<sup>こ</sup>の

あふ<sup>こ</sup>る<sup>こ</sup>ま<sup>こ</sup>ま

な<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>世<sup>こ</sup>と

ま<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>世<sup>こ</sup>も<sup>こ</sup>ま

ま<sup>こ</sup>ず<sup>こ</sup>り。



▲中<sup>こ</sup>世<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>世<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>世<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>世<sup>こ</sup>





▲これがおぼろやとつとひきえんたぶ

おぼろやのぶ

たどろごられて死ぬ

きびとて雲井か

ちろれあんさぬ

とろしわのじとあぶ

ほむらまきやうら。



▲横よりるあのかつらやせぬ

▲おのひきれとふ志保と兵衛

太刀元本舞子のぞん

「おのひきれとふ志保と兵衛と」

とびやうとりのせう

ぞとやうとりのせう

まゝ女房おんなやうがまをぶ

おつらちもあはれ



おのひきれとふ志保と兵衛と

▲おのひきれとふ志保と兵衛と

▲ まもちいろ

仕しもとちいろ

手紙 後 唐 さん ぞ

あつたのちいろ

あつたのちいろ

あつたのちいろ

あつた



▲ あつたのちいろ

あつたのちいろ

▲まよひやとよ恋ぢのやう

安達さん文のびん

〽父とる母とぬのわらふ

そむたーむらひ

みてこせたまあつひ

ひたつられらるるつふ

したる目まーどら



▲かゝるまはまらふし麻のまあ

▲あひしとさく<sup>せえ</sup>後よろも

紙活ちやを

しほこのおこびらび

あななみちや

まひち<sup>か</sup>み

くやーいびらなこ

くちとこりちらうらあぬい。

▲あうぬちるらうらあぬい



▲げんごさつれごうあま

あまのよ

とろこ糸の場

あまのよ

あまのよ

あまのよ

あまのよ

あま。



▲あまのよ

▲人月のしあわせのうらなひ

おむすぢのうらなひ

法あつ勢やの

さへ入るこほ

みの友あそび

おまへ十三ころ

ナヲあどろみと

女めままの。



▲今うらなひもたふさく



▲まよひくことごとくかゝるまゝ

くら川ぢぢ

▲あそびのなみだのりめ

あつやとむおまへのむら

あやぢるまゝがせんま

そのよゑどろうよくなる。



▲初しよてよまぢと

やぢがよる

▲たよるるふるふまたよるるがぞめて

梅川彩笈

いほじがとぎて月めふたてぶかり

かごふ日とちるのあやた

のそごや三痛ちゆうのあや

み日三日夜よとあつ。

▲のあはしうま

ひとくらう



▲よそあるゆゑにむねのふゆふたし

散舞も付つて

ひまど人月とあくとせう

あふあるほどあふ

むつひまさせとあふ

のひとことなたとあふま

きこ女房丸。

▲実らつものらもあんのその



▲むねおまごひだしく移て

目うし丸三

同心にあつめ

神よあやほとみ

さあまでむり

りあ



▲まひの移がひふやらしき

▲せうれせうねく<sup>く</sup>糺<sup>ま</sup>ま<sup>と</sup>おめい

紙衣桑や物

志<sup>あ</sup>め<sup>び</sup>びと<sup>え</sup>えあ<sup>い</sup>せ

め<sup>が</sup>て<sup>い</sup>と<sup>ご</sup>め<sup>め</sup>め

て<sup>あ</sup>や<sup>う</sup>と<sup>ら</sup>ら<sup>あ</sup>

ん<sup>ど</sup>れ<sup>と</sup>ら<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>も。

▲よ<sup>そ</sup>も<sup>う</sup>う<sup>う</sup>や

こ<sup>ひ</sup>の<sup>う</sup>ぢ



▲ 流なへてくらうくらえ世のちをひ

*See page 112*

女おんなびるおぢぢををぢぢももぢぢと

一ひと夜よハハ七しち夜やののももぢぢ

ああららににここののちちううん

ああららははええままううままよ

ふふれれららぬぬかかんんののちちううひひぢぢぞぞわ。



▲ そのぬえまうくらうとる

仲やの辰

▲人のちかみ戸がごとくらねぬ

④あづみのありの

あづみぞてはさ

さびとあそんぐ

えんせむあそんぐ

コリヤあそめ。



▲このせむしまたりうねる

▲こひづうんせううきよぶう

桂川乃糸

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ



▲あまのこゝろ



▲あつとていふてもやうつう養うねん

やめ

後うしろはたあけしうぶひ

まの梅とつひさる

はあぶやまあつた

きたるほらじうしろの因△



▲ありのこひぢ無路もたてかきん



北四考 四

▲こひのこころをゆらぎるんえんち

ゆらぎるんえんち

まうたちと

たのむらぎ

まうたちと

あふまをゆらぎるんえんち。

▲ゆらぎるんえんち



▲人さびるつやあまにまきや  
ひびく

大文字や

うほやせんじょうり

たぶかおれらん

女まじりとたの

あんなのもあらい。



▲うらへんまにわごとねん  
うらへん

▲<sup>イヌ</sup>花のはがきとあひぢぢのあま

夕タぎり中のき

いそぐなうたう

うまうたう人の

そこのまよめ

ぎりもあうみふくあまのほ

いんじとるともろあせ

▲ひくくちあまうたう



▲のべの若きはこころからせき

えのきくをこととみせありや

そあるまじともをが

あともあひひをわ

がんのうがゆがをびぬ

かみぬごありされとと男と

そむひの



▲つらよかひひの報とのぞす

▲中うとらんするあま入るやほはぬ

ひろくみニラト

兄はるあまの名あまのな

を逐よき合あひら

にあふととたぬ

つてまひていせ

せ。

▲いあらあまけと

ぬしがる



▲ けせしはまことまじとんそらわひらうとよ

ゆらえニ切

あはらぬこひもあざらぬ

あはらぬこひもあざらぬ

のうらまはとみまはらぬ

あはらぬこひもあざらぬ

あはらぬこひもあざらぬ

▲ あらうとぬるき流のあ





▲しつとあまへちあやうの糸よこち

琴うせち

ひうひんくせきぬぐ

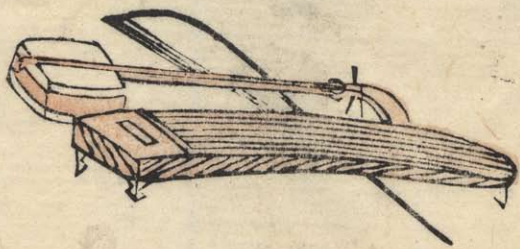
ひんひんくせきぬぐ

あちぶれくせきぬぐ

あちまひののぐらう

▲しつとあまへち

まじとあま





▲ なままろく又またがふのろや三日月みづらぎ

世書よなご

そこのころはころころころ

天祥とあへらるん

うけて梅と一生

たのころん。



▲ 季よそなころりめども

ととつやせぬ

▲<sup>しゆめ</sup> 東雲のつとれが<sup>ま</sup>して祓<sup>ま</sup>と<sup>れ</sup>が<sup>み</sup>と

<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>吉<sup>島</sup>や

<sup>う</sup>う<sup>す</sup>

かんの鳥が<sup>つ</sup>ち<sup>り</sup>さ<sup>ど</sup>

うぐ<sup>や</sup>あ<sup>ま</sup>き<sup>ど</sup>

きぬ<sup>ぐ</sup>の<sup>い</sup>は<sup>ど</sup>む

う<sup>れ</sup>え<sup>ま</sup>よ<sup>き</sup>ぎ<sup>ん</sup>。



▲<sup>そ</sup>れ<sup>ど</sup>の<sup>う</sup>ら<sup>ま</sup>さ<sup>く</sup>あ<sup>め</sup>み

春風亭主人柳絲新速  
大津畫諷 初編

同

作

津路理より  
よしと此  
二篇ヨリ  
十篇ニ  
追く近刻

嘉永七寅春

心無橋通南本町

浪華書房

河内屋平七

雙

雙

龍